

★射手座(11・23~12・21)懐かしい場所に幸運あり。昔なじみの飲み屋で再会も。
★山羊座(12・22~1・19)楽天的な気分になるとき。いつもの慎重さを忘れずに。
★水瓶座(1・20~2・18)思い込み強し。集中力を良い方向に向けて大成功も。
★魚座(2・19~3・20)レジャー運好調。仲間を集めて、あなたが仕切って吉。

神戸支局 神戸市中央区栄町通4の3の5
〒650-0023 078(371)3221
FAX 078(371)7615
kobe@mainichi.co.jp
阪神支局 尼崎市東難波町5の16の29
〒660-0892 06(6482)1221
FAX 06(6482)5456
hanshin@mainichi.co.jp
【主な通信部】丹波通信部 079(552)0388
【講読問い合わせ】 0120-468012

姫路支局 姫路市三左衛門堀東の町102
〒670-0949 079(282)1221
FAX 079(288)2330
himeji@mainichi.co.jp
豊岡支局 豊岡市元町10の6
〒668-0026 0796(22)6331
FAX 0796(23)5188
toyooka@mainichi.co.jp
淡路支局 洲本市本町3の1の40 〒656-0025
0799(22)1360 FAX 0799(24)1360

兵庫



吉富志津代さん(左)の話を真剣な表情で聴き入る伊藤チャリトさん(右中央)=神戸市長田区海運町3のたかとりコミュニティセンターで

同センターは阪神大震災後にボランティア活動の拠点となつた「たかとり救援基地」が前身で、震災5年後、00年に設立された。外国人登録者が700人を超える同区の力トリックたかとり教会敷地内に拠点を設け、多言語で情報発信する「FMわいわい」やアジア女性の自立を支援するNGO「アジア女性自立プロジェクト」など10団体で構成している。各団体がそれぞれの特徴を生かし、多文化共生コミュニティの一実現に向けて活動している。

地元でも根付かせたいと意欲

度に大きなテーマとなる外国人被災者のサポートは、東日本大震災でも課題の一つだった。伊藤さんは日本語で日常会話はできるが、漢字の読み書きは苦手。このため、最も大切な地震や避難の基本的な情報が理解できない場面があり、苦労したという。

そんな中、4月下旬に支援で気仙沼市を訪れた同センター常務理事の吉富志津代さんは、震災体験を語る1時間のラジオ番組を作った。制作ノウハウや機材は、同センターで翻訳通訳などで地域の外国人らを支援するNPO法人「多言語センター」FACIL」とFM

神戸・たかとりコミュニティセンター

マイノリティーの視点に立つ活動団体のネットワーク作りを支援する神戸市長田区のNPO法人「たかとりコミュニティセンター」に10月下旬、宮城県気仙沼市で東日本大震災で被災したフィリピン出身の伊藤チャリトさん(37)と高橋レイシェルさん(41)が研修に訪れた。外国人向けのラジオ番組制作を学ぶとともに、同センターが多角的に取り組む「多文化が共生するコミュニティづくり」に触れ、地元気仙沼でも根付かせ、花開かせようと意欲を見せていた。【山川淳平】

気仙沼・比出身の2人研修

明日に備える



ラジオ番組の制作で集まったフィリピン出身の女性ら(伊藤チャリトさん提供)

多文化共生のまちづくり学ぶ

同センターで、録音した音源をラジオ番組に編集する方法などを熱心に学ぶ伊藤さん、高橋さんに、吉富さんは「番組を作ることが目的ではない。まちづくりを進める中で、自分たちが何をするべきか、何を目指しているのか、何のためにこうかということをしているのか」と語りかけた。二人は「今までにはただラジオ番組を作ることしか考えていないかった。ラジオは地域で人間関係を作るための一つの方法だということが、今回の研修でよく分かった」と話し、多文化が共生できる地域作りの大切さを感じ取っていた。

外国人被災者が情報発信

被災外国人のためのラジオ放送として反響を呼び、多くのマスメディアにも取り上げられた。「すばらしい。もっと続けてくれ」とリスナーから声が上がり、フィリピン本国からも継続を求めるメッセージが寄せられたといふ。反響を受け、今は救援物資の仕分けなど、震災後の活動を発信しようと新たな番組制作に取り組んでいる。